



「イエス！次郎（校長室より）」（第4号） 「初孫襲来」

何とまあ、この世にこんなに可愛い生き物がいるとは知らなかった。神奈川県から、娘夫婦が初孫を連れてやって来た。初孫の名前は、長男だけど綺世。綺という漢字が持つ、「色彩豊かに美しく輝く」という意味から、綺麗で多彩な光を自身の世界に広げていける人になってほしいという願いが込められているとのこと。ちなみに、サッカー日本代表の上田綺世選手のことは名前を決めてから知ったらしい。

御年0歳6か月。私と綺世との対面は、お宮参り以来で2度目である。あの時はまだ笑顔もなかったが、今回は私の顔を見てよく笑う。可愛い。マジで可愛い。本当に可愛い。可愛すぎて泣きそうである。寝返りはまだうてないが、「アー」とか、「ウー」とか叫ぶ。声まで可愛い。私は心に決めた。綺世がこの世で最初に喋る言葉は、「ママ」でも「パパ」でもなく、「イエス！」にしよう。滞在していた10日間、若夫婦の目を盗んでは、「綺世、イエス！綺世、イエス！」と刷り込んだ。嫁さんは呆れ顔で私を見ていた。

綺世のために、3Dプリンターで、「長男だけど次郎フィギュア」のミニチュア6cmバージョンを作った。このサイズでも作るのに2時間近くもかかる。プレゼントしようとしたら、「お父さん、綺世が誤飲したらどうするの!!」と、娘に叱られた。なんてこった。私としたことが。「ごめんなさい。」と謝って、10cmバージョンを作ってやった。4時間近くかかった。ちなみに、18cmバージョンは7時間近くもかかる。

それにしても、この若夫婦は凄い。ミルク、離乳食、おむつ替え、沐浴など、連携プレイが素晴らしい。しかも、記録をスマホに丁寧につけている。抱っこ、寝かせつけはもちろん、夜泣き対応もいやな顔一つせずこなしている。わが娘は、しっかりと母になっていた。婿殿も立派な父になっていた。昔の自分を思い出しながら（反省しながら）二人、いや、三人を眺めていると、そこには確かな愛が見えた。

生徒の皆さん、皆さんもきっと、こんな風に愛されてきたのです。反抗期で親とあまり喋らなくなったり、たまには喧嘩したりすることもあるかもしれませんが、お互いの愛を、決して忘れないでください。

